

平成 27 年度日本認知症ケア学会・読売認知症ケア賞「功労賞」



高 橋 幸 男（たかはし ゆきお）

1948 年 3 月 30 日生まれ

【授賞理由】

高橋氏は永年にわたり認知症を病んでも安心して暮らせる地域を実現すべく地域住民との対話型の啓発活動をとおして認知症の人の思いを大切にした医療・ケアを実践されてきました。社会や人間関係によって出現する BPSD への理解の普及という地域に根差した貢献はわが国の認知症ケアの礎を築いたといえます。

【略歴】

1974 年 3 月	東北大学医学部卒業
1974 年 6 月～1983 年 3 月	岩手県立南光病院
1983 年 4 月～1984 年 3 月	鳥取大学医学部附属病院
1984 年 4 月～1987 年 3 月	島後町村立隠岐病院
1987 年 4 月～1991 年 3 月	島根県立湖陵病院
1991 年 4 月～	医療法人エスポアール出雲クリニック

【褒賞】

第 96 回日本精神神経学会精神医療奨励賞（2000）、厚生労働大臣表彰（2013）、ほか

【業績および活動内容】

認知症の偏見や誤解を解消し、認知症の人や家族が安心して暮らせる社会をつくることを目的に活動している。認知症に対する恐れから認知症を生きることは容易ではない。1993 年に開設した重度認知症患者デイケア（以下、小山のおうち）で出会った多くの認知症の人たちは、認知症を病むことで身近な人たちとのつながりを失くし、寄る辺なくなることのつらさや不安を教えてくれた。しかし、周囲はその状況を理解せず、逆に認知症になって欲しくないと励ますことで対応しようとする。認知症の人は早い段階からそれを「叱られる」と受けとめ、叱られ続ける結果、追い込まれて BPSD を発症するのである。BPSD は叱られることでさらに悪化し、介護している家族も疲れ果てる。私たちはそれを“からくり”と呼び、認知症を病んでも安心して暮らせるためには、この“からくり”に対処することが誰にとっても重要と考えその普及に努めている。

小山のおうちでは、サイコドラマの手法を応用した認知症の人への集団精神療法を行ってきた。トムキッドウッドがパーソンセンタードケアを提唱する前から、認知症の人の言葉（つぶやきや手記など）に注目し、認知症の人の思いを大切にした医療やケアを展開してきた。小

山のおうちでは、かかわりの上で 2 つの柱をもち、1 つは、認知症をタブーにしないで認め合うこと、2 つは、できることがいっぱいある認知症の人の強みを主役体験として提示していただくことである。小山のおうちで得た知見（“からくり” など）は、論文や著作に著わし、認知症フォーラムへの登壇や、講演活動を行なうなど啓発に勤めている。さらに地域住民との対話型の啓発活動（出前交流塾）を重ねて 12 年になる。

小山のおうちの経験から得た、認知症の人の思いを大切にした医療・ケアは、繰り返し、論文や著作、メディアで情報発信してきたが、小山のおうちへの全国からの研修者は 1,000 人を優に超している。最近になってやっと全国的に認知されるようになってきている“からくり”は、出雲市の広報の中でも取り上げられ、出雲市判認知症ケアパスにも、認知症の経過のなかで記載されている。認知症サポート医やかかりつけ医からも要請があり、出雲医師会のホームページにアップされている。小山のおうちはもとより日々の外来では、“からくり”を理解する家族など身近な人が多くなり、BPSD が持続する人は少なくなっていて、入院にいたる例はきわめて少ない。

【主な著書・論文】

- 1) 高橋幸男：認知症はこわくない；正しい知識と理解から生まれるケア。NHK 出版，東京（2014）。
- 2) 高橋幸男：輝くいのちを抱きしめて；「小山のおうち」の認知症ケア。日本放送出版協会，東京（2006）。
- 3) 高橋幸男：認知症を生きる人と家族への支援。Dementia Japan, 26（1）（2012）。